

第 20 回日本臨床検査学教育学会学術大会 大会長挨拶

このたび、第 20 回日本臨床検査学教育学会学術大会を九州大学にて開催するにあたり、ご挨拶申し上げます。

日本臨床検査学教育協議会は、臨床検査技師教育の発展と教育の質向上を目的として、これまで 19 回にわたり学術大会を重ねてまいりました。そして今回、節目となる第 20 回大会を迎えますことを、大変意義深く、光栄に存じます。

本大会では、「臨床検査学 次の 20 年へ！— 目指す未来、実現への課題」をテーマに掲げました。これまでの歩みを礎としつつ、これからの 20 年を見据え、臨床検査学の将来像を多角的に議論し、その実現に向けた課題を整理するとともに、具体的な道筋を見出す契機としたいと考えております。

本大会では、臨床検査学の現在と未来を見据え、三つの柱を軸にプログラムを構成いたしました。第一に「現在の臨床検査学教育の課題」として、新カリキュラムや臨地実習における教育の質保証、教科書・教材のあり方、さらには教育と臨床現場の連携強化について議論を深めます。第二に「予測可能な未来への対応」として、学際的研究体制の構築や産官学連携の推進、研究基盤の強化、次世代研究者の育成に焦点を当てます。そして第三に「予測不可能な未来への対応」として、社会や医療の急速な変化に対応できる、多様な人材の育成について考えます。

また、本大会では、各テーマに対応したパネルディスカッションに加え、特別講演や若手教員による研究発表、ランチョンセミナーなど、多彩なプログラムを企画しております。とりわけ、臨床検査の国際化や多様性、そして我が国の医療の将来像といった重要な視点からの講演は、これからの臨床検査技師教育と実践の方向性を考える上で、大きな示唆を与えるものと期待しております。

臨床検査学は、診断、治療法の選択、治療効果の評価、予後予測、さらには未病段階でのリスク評価に至るまで、医療の根幹を支える重要な学問領域です。同時に、その発展は教育、研究、臨床の三者が有機的に連携することによって初めて実現されます。本大会が、これらをつなぐ新たな対話と協働の場となり、分野全体のさらなる発展につながることを願っております。

本大会が、次の10年、20年の医療を支える臨床検査技師の育成と、臨床検査学の持続的な発展に寄与する実り多い機会となること、そして本学会の新たな一歩となることを心より祈念申し上げます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第20回日本臨床検査学教育学会学術大会
大会長 勝田 仁